

## キャンプファイヤー

[所要時間 約2時間]

…活動を行うにあたって…

炎を囲んで、歌や踊り、楽しい出し物などを行います。参加者の連帯感や友情を深めることができます。研修のまとめや自己を深く見つめる機会に適した活動です。

### 【活動場所】

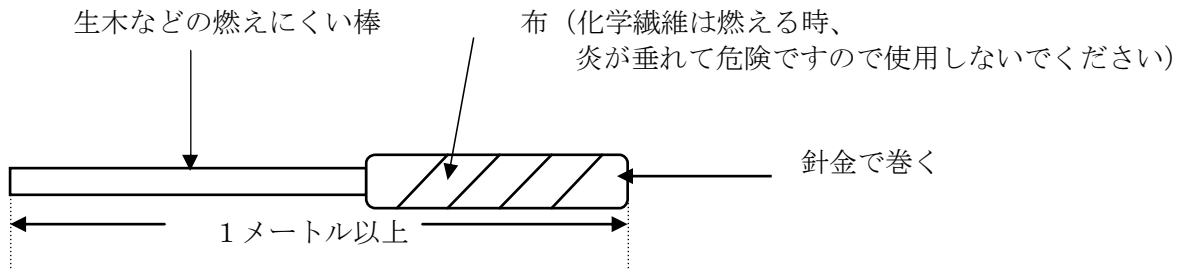
野外劇場・・・５０名程度  
あじさい広場・・・１００名程度  
たけのこ広場・・・２００名程度

### 【準備する物】

利用団体	[売店にて購入]薪（３～５束必要、１束 330 円） トーチ（必要数）・灯油・交歓の集いで必要な物・マッチ又はライター・軍手
センター	CD ラジカセ・マイク・スコープ・消火用バケツ・衣装・枕木

### 【活動上の留意点】

- ・火の取り扱い（トーチ等）には十分気をつけてください。終了後センター職員が消火確認を行いますので、必ず連絡をしてください。
  - ・雨天、強風の場合は実施できません。（雨天時の活動を考えておいて下さい。）
  - ・開始・終了時には必ずセンター職員までご連絡ください。
- ※トーチの作り方



### 【役割分担の例】

役割	人数	内容
営火長	1	集いの責任者で、始まりと終わりに言葉を述べます
火の司	1	プログラム全体の司会進行をします
火の神	1	迎火の集いで、火をかかげて入場します
火の守	4～8	分火したトーチをかかげ、誓いの言葉を述べます
ファイヤーキーパー	2	まき組みをしたり、火勢の保持につとめます
献詩係	1～2	迎火・別れの集いで、詩の朗読をします
音響係	2	集いが盛り上がるように演出します
会場係	10	まき組みや後片付けをします

## 【展開例】

### 事前準備

- ・ 枕木、薪の組み立て
  - ・ トーチ、灯油、防火用バケツ、使用機器の準備
  - ・ リハーサル等
- ※事前の準備時間を 30 分程度確保しておいてください。
- ・ 開始の報告（点火前に必ず事務室へ連絡をしてください。）

第 1 部 迎火の集い（聖なる火を持つ火の神を迎え、中央の火床に点火します。燃え上がる炎を囲みながら、友情の火を起こしましょう。）

内容	流れ
全体入場	<p>(火の神) 衣装を着替え、用意しておく</p> <p>(全員) 4列で入場し、火床を中心に円になる</p> <p>(火の司) 「ただいまより、〇〇学校キャンプファイヤーを行います。火の神が若杉山からの聖なる火を持って入場しますので、静かに見つめてください」</p> <p>(火の神) 静かに入場し、火床と参加者の間を一周し営火長の横につく</p>
集い開始の言葉	<p>(火の司) 「それでは、営火長よりはじめの言葉をお願いします」</p> <p>(営火長) 「いまここに皆さんの友情・・・」(資料 1→P 10)</p>
火の守へ分火誓いの言葉	<p>(火の司) 「それでは火の神から火の守へ分火してもらいます」</p> <p>「分火」</p> <p>(火の守) 火の守は一人ずつ分火してもらいにいく</p> <p>分火直後、一人ずつ誓いの言葉言う</p> <p>(火の守 A) 「私はこの火に変わらぬ愛を誓います」</p> <p>(火の守 B) 「私は・・・」(資料 2→P 10)</p> <p>(火の司) 「火の神より火の守へ分火されました。火の守は火の神の前へ整列してください」</p>
中央の火床に点火	<p>(火の司) 「ひきつづき、火の守によって中央の火床に点火をお願いします」</p> <p>「点火」</p>
詩の朗読	<p>(火の司) 「火床に炎がともりました。人の一生は何もしないでいるには長すぎます。何かをしようとするには短かすぎます。同じ人生ならば、ぜひとも心に光り輝く一瞬をもって前向きに生きてみたいものです。中央の火床の明かりを見つめながら、詩の朗読を静かに聞いてください」</p> <p>(献詩) 「営火は燃える、赤々と・・・」(資料 3→P 10)</p>
1部エンディング	<p>(全員) 流れてくる曲を静かに聞く</p> <p>(知っていれば歌う あとはハミングで)</p>

第 2 部 ゲーム・出し物（グループや班で楽しいゲームや出し物を行い、友情を深めましょう。）

第3部 送火の集い（今夜自分達を照らし続けてくれた炎に感謝し、仲間との友情を深め合いましょう。）

内容	流れ
全員集合	<p>(営火長) 火床の前に出てくる</p> <p>(火の司) 「人は決して一人では生きられません。支え合い、寄り添い合っ てこそ生きられるものです。このトーチも、自分の身をすり減ら しながら、私たちのため光を与えてくれました。あなたが愛する 人を、そしてあなたを愛してくれる人を思い浮かべてごらんな さい……。お父さん、お母さん、兄弟、友達……」</p>
詩の朗読	<p>(少し間をあけて)</p> <p>(火の司) 「とても楽しいひとときでした。しかし、もう夜も遅くなっ てきました。そろそろこの場所を野生の動物たちにゆずりましょ う」 「それでは営火長から終わりの言葉をお願いします」</p>
営火長の言葉	<p>(営火長) 「大勢の友達が一つの光を……。」(資料4→P10)</p>
集い終了の言葉	<p>(火の司) 「以上をもちまして、〇〇学校キャンプファイヤーを終わ ります」</p> <p>(全員) 退場</p>

後片付け

- ・火床の消火（水をかけて完全に火を消してください。）
- ・終了の報告（終了時に必ず事務室へ連絡をしてください。）
- ・センター職員の点検（点検が終わるまで必ず待機しておいてください。）
- ・用具の回収、返却
- ・火床の片付け  
（台車が熱くなっていますので、翌朝つどい前までに片付けてください。）



## キャンプファイヤー資料

### (資料1) 集い開始の言葉 (1部 迎火の集い)

いま、ここに皆さんの友情と団結のために聖なる火を迎えます。

私たちは、この研修に参加することにより、仲間としての絆をさらに深く結ぶことができました。

ともすれば、自己の生活を見失いがちな私たちはこの研修によって、自ら考え、自ら行うことの意義を、身をもって体得しました。

規則正しい生活、創造的な生活体験は、自己を改めて見直させてくれると共に、多くの若き仲間の、たくましさや素晴らしい行動を知らせてくれました。

この聖なる火を囲んでの集いが、一人一人の心の奥深く、いつまでも美しく、しかも、楽しい思い出となるように祈りつつ、この集いを開きます。

### (資料2) 誓いの言葉 (1部 迎火の集い)

わたしはこの火に友情を誓います

わたしはこの火にたえず努力することを誓います

わたしはこの火に尊敬する心を持つことを誓います

わたしはこの火にみんなと協力することを誓います

わたしはこの火に希望を持つことを誓います

わたしはこの火に助け合いの心を誓います

わたしはこの火に思いやりの心を誓います

わたしはこの火に家族を大切にすることを誓います

### (資料3) 詩の朗読 (1部 迎火の集い)

営火は燃える 赤々と燃え まっすぐに燃え 勇気を出せと励ます

営火は燃える ゆらゆらと燃え 招くように燃え 豊かであれと励ます

営火は燃える 踊るように燃え 舞うように燃え 輪を広げようと励ます

私を支える営火の火は いつまでも闇を照らし 今が本番だと教える

人生には リハーサルがないと教える 私は何時間でも この火を見つめる

### (資料4) 営火長の言葉 (3部 送火の集い)

大勢の友達が一つの光を中心にして歌ったり、踊ったりして、打ち解け合い、楽しく過ごしたこの2時間の感激は、皆さんにとっては忘れられない良い思い出となることでしょう。

この火は消えても、いつまでも心の中に炎を燃やしつづけて、一緒に過ごした仲間を思い出してください。